

市の指定文化財⑧  
もろふくてんまんぐうほんでん  
諸福天満宮本殿

諸福を東西に横切る古堤街道を北に入ったところに、諸福天満宮があります。

諸福天満宮は、権現造風の拝殿に覆われた中に本殿が納められています。本殿は、一間社流造で、屋根は檜皮葺とされています。

各部に施された臺股には、虎や猫などの動物が写実的に彫刻されており、また向拝の木鼻を象の彫刻とするなど、江戸時代初期の桃山様式建築の特徴を表します。

社伝によると、寛永20年(1644年)に当地に勧請されたということですが、建築様式などから考えても、この本殿がこのときに建てられたものとして間違いないと思われる、市内では最も古い建築物といえます。

平成の修復がなされて彩色が施されたため、往時の姿が復元されました。

なお、隣接する勝福寺は諸福天満宮の宮寺的性格にあつたものと考えられます。

諸福天満宮は、江戸時代には「産土神社」と呼ばれていました。菅原道真を祀っていることから、明治5年(1872年)に「菅原神社」と改称されましたが、平成11年現在の社名に改められました。(市史編纂委員 岡村喜史)



木鼻

